奈良工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	歴史Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0033	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	機械工学科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『高校世界史Ｂ』山川出版社・『明解世界史図説　エスカリエ　十訂版』帝国書院/配布プリント		
担当教員	増山 聖子		

到達目標

1．現代世界の諸課題について歴史的背景を踏まえて理解し、持続可能な世界を構築するための方法を考察できる。
2．人々の痕跡が地域遺産として残されていることを理解し、自国理解だけでなく国際協調の重要性を理解することができる。
3．当時の人々がどのように考えて行動してきたのかを、史料・統計資料から読み取り、現代とは異なる視点から見ることができる。
4．異なる地域の接触と交流によって地域社会が形成されたことを理解し、多面的な視点から世界の諸地域を見ることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代世界の諸課題について歴史的背景を踏まえて理解し、持続可能な世界を構築するための方法を考察できる。	現代世界の諸課題について歴史的背景を踏まえて理解できる。	現代世界の諸課題について歴史的背景を踏まえて理解できない。
評価項目2	人々の痕跡が地域遺産として残されていることを理解し、自国理解だけでなく国際協調の重要性を理解することができる。	人々の痕跡が地域遺産として残されていることを理解できる。	人々の痕跡が地域遺産として残されていることを理解できない。
評価項目3	当時の人々がどのように考えて行動してきたのかを、史料・統計資料から読み取り、現代とは異なる視点から見ることができる。	当時の人々がどのように考えて行動してきたのかを、史料・統計資料から読み取ることができる。	当時の人々がどのように考えて行動してきたのかを、史料・統計資料から読み取ることができない。
評価項目4	異なる地域の接触と交流によって地域社会が形成されたことを理解し、多面的な視点から世界の諸地域を見ることができる。	異なる地域の接触と交流によって地域社会が形成されたことを理解できる。	異なる地域の接触と交流によって地域社会が形成されたことを理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程（本科１～５年）学習教育目標 （１）

教育方法等

概要	グローバル化が浸透する現代世界において、地域独自の文化・社会への深い理解が求められている。文化・社会とは、その地域で生きた人々の営みが積み重なったものであり、私たちの日常生活の一部として今も生きて続けている。本講義では、世界の歴史を学ぶことを通して、現代社会の成り立ちを理解し、未来を展望することを目的とする。
授業の進め方・方法	歴史の学習において重要なことは、なぜその出来事が起きたのかを歴史的背景を踏まえて考察することである。そのため、各地域の政治、文化、社会、宗教を踏まえるだけでなく、その周辺地域の影響も意識しなければならない。本講義では、現代世界に強い影響を与えているヨーロッパ諸国の歴史を中心に概観しつつ、地域性が形成されていく過程を探っていく。
注意点	関連科目：地理・歴史Ⅰ・政治経済 学習指針：海外について学習していくため、その位置を把握することが重要である。地理で使用した地図帳を参照することが重要である。 自己学習：到達目標を達成するためには、授業以外でも教科書を読むなど、授業内容についての理解を深める必要がある。特に、授業後の復習を欠かさないようにすること。

学修単位の履修上の注意

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	講義の目的・概要・評価方法について理解することができる。
		2週	オリエントと地中海世界①	古代オリエント世界の形成について理解できる。
		3週	オリエントと地中海世界②	古代ギリシャ世界と文化の伝播について理解できる。
		4週	オリエントと地中海世界③	大帝国へと発展した古代ローマの特徴を理解できる。
		5週	中国の古典文明①	中国の古代文明について、その特徴を理解できる。
		6週	中国の古典文明②	秦・漢王朝の成立、皇帝について理解できる。
		7週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		8週	中国の分裂①	三国時代を歴史・地理の両面から考察することができる。
	2ndQ	9週	中国の分裂②	隋・唐の成立と日本との結びつきについて理解できる。
		10週	中国の分裂③	唐・宋における制度・文化について理解できる。
		11週	中世ヨーロッパ世界①	ゲルマン人の大移動とその影響について説明できる。
		12週	中世ヨーロッパ世界②	十字軍の意義について、説明できる。
		13週	中世ヨーロッパ世界③	封建社会の成立と百年戦争について、理解できる。
		14週	空前の大帝国	モンゴル帝国の成立が世界に与えた影響を説明できる。
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。
後期	3rdQ	1週	アジア諸地域の繁栄	明・清朝の成立と西欧諸国との関係について説明できる。

		2週	近世ヨーロッパ世界①	大航海時代の幕開けとルネサンスについて説明できる。
		3週	近世ヨーロッパ世界②	宗教改革と主権国家体制の成立とその特徴を説明できる。
		4週	近世ヨーロッパ世界③	イギリス革命の意義について、説明できる。
		5週	近世ヨーロッパ世界④	ユグノー戦争と三十年戦争について、理解できる。
		6週	近代ヨーロッパとアメリカ世界①	産業革命とアメリカ独立戦争について、説明できる。
		7週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		8週	近代ヨーロッパとアメリカ世界②	フランス革命とその後の影響について、説明できる。
	4thQ	9週	近代ヨーロッパとアメリカ世界③	ナポレオンの登場とウィーン体制について、理解できる。
		10週	近代ヨーロッパとアメリカ世界④	アメリカ南北戦争の勃発とその背景を説明できる。
		11週	２つの世界大戦①	第一次世界大戦の勃発とその背景を理解できる。
		12週	２つの世界大戦②	ヴェルサイユ体制と世界恐慌について理解できる。
		13週	２つの世界大戦③	第二次世界大戦の勃発と各国の動向を理解できる。
		14週	２つの世界大戦④	第二次世界大戦における民族と科学者の動向を理解できる。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消できる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	後6,後8,後9,後10
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	後11,後12
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後13,後14
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	後1

評価割合

	試験（前期中間・前期末・後期中間・学年末）	授業への取り組み（提出物の完成度、グループ学習等での発言回数や内容）	課題レポート	合計
総合評価割合	60	25	15	100
基礎的能力	60	25	15	100